
魂ノ賭ケ事

榎本 花音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魂ノ賭ケ事

【Nコード】

N4238J

【作者名】

榎本 花音

【あらすじ】

主人公：京平がとあるきっかけで死神になった。

そんな彼の憧れは、出会ってすぐにあつた未来先輩。才能がない彼にとっては一**番**の憧れで見本で、夢で目標。彼は未来先輩目指して頑張っている。

これは仕事に挫折しそうになり、先輩に恋しそうになり、キラキラ青春したり、人を殺したりするお話です。

俺と未来先輩（前書き）

序章

俺と未来先輩

収穫、0。

いつもの事だ。そうだよ。俺は落ちこぼれなんだよ。

何の落ちこぼれか？ 答えんのも面倒臭い。それぐらいかったるいんだ。

「くっそ…」

俺は鉛色の鎌を床に置いた。どすんという音が響いた。

この「仕事」を辞めようかとも思っている。だが、不可能。人材不足のためだ。ああ、忌々しい。くそ忌々しい。

そんな時上から声が聞こえた。

「よう」

「あ、先輩」

俺よりも一回り年上の「仕事」の先輩 未来先輩みらいがそこにいた。

「悩んでいるみたいだな」

「!!!」

「あれ、ビンゴ？」

ほら、勘が鋭いから困るんだ。俺が。……………忌々しい。

「で、何悩んでんだ？」

畜生。

「……………話します」

先輩はにつこり笑った。一種の合図だ。

「……………最近俺、この「仕事」向いてないと思ってきたんです。ここ一週間魂一個も獲れないんです。それに、…うっ、」
「泣くな」

そして俺の頭をくしゃりと撫でた。

「お前はどんなときでも笑顔でいる。どんなに辛い時でも、な。お前らしくない」

この時の意味を知るのは、まだ幼すぎた。
ああ、俺の職業。それは 死神。

俺と未来先輩（後書き）

とりあえず今コレだけ。続きは来週中にupします。

5 ランク

俺が仕事した中で、最もデカイ仕事に当たった。1万人の人間を殺すことだ。正確には、魂をあの世に1万送る、だ。責任重大になる。

まだまだ半人前の俺にこんな仕事を回すのは、絶対何かある。
何なんだ？

「京平」

依頼があつて三日後
を掛けられた。

つまり仕事開始まで後四日。ふと、声

未来先輩。

「先輩？」

ちなみに、京平というのは、俺の名前だ。

「……何かあつたか？」

「……」

先輩には仕事のことは話してない。

「まさか………仕事の悩みか？」

なんでこの先輩鋭いよ。

話すしかないのか。

「そうか」

意外とあっさりした反応だった。

この先輩は変に過保護である。まあ時期が来たら解る。

「…」

「だがな、絶対落とし穴がある。気をつける」

やはり、そうか。あの勘が鋭い先輩が「絶対」と言っている。何か起きない訳が無い。

警戒しよ。

先輩の言った意味を知るのには、まだ早すぎる。

後日、仕事ミツゴトまでの授業は熱心に受けた。失敗したらどうなるか。想像したくも無いな。

ほ、本当だからな！

ちなみに、死神にも学校がある。俺は、その中でもビリから2番目のクラスにいる。つまり劣等生だ。

人間の頃から勉強は苦手だった。はっきり言って死んでからも勉強、なんて地獄当然だ。

そんないつも1〜3クラス（つまり一番簡単な仕事）ばかりやってる俺がなぜ5ランクの仕事をやんなきゃいけないのか、未だに謎である。

さあ、仕事当日。いきなり地震がおきた。

そういう事か。この地震で亡くなった人を運ぶのか。

俺は鎌を構える。

「いづくぞおおおおおおお！」

なぜかルール上で首を獲ってから魂を奪う、という決まりがある。
所謂、^{いわゆる}

「あつはははははははははは！フルボッコ！」
死神の本気モード《フルボッコ》。

俺は冷静さと本性を保ちながら、一気に運ぶ。

人間の赤い血。見ているだけで興奮する。

………今、完璧に病んでる。ま、いいか。

「あつはははははははははははははははあぁあ！」

自分崩壊中。その時頭の中で、声が響いた。

「落ち着け」

………未来先輩？

「京平の任務は何だ？ 1万人の魂を送り出すことだろう？ ここ

は戦をするところじゃない。仕事をする場所なんだ」

我に返った。

ここで丁寧に送らなかつたら、魂に傷がつく。つまり、来世に影
響が出てくる。

『絶対何かある』

未来先輩が言った。それに、上の人達がなに考えてんのか分か
らない。

ここからは本性にできる限り戻らず、冷静に仕事をした。

………結果、^{シムツン}仕事成功。

あの時未来先輩が声を掛けなかつたらどうなるか……。想像したく
もない。

「京平さん。校長がお呼びです」

担任がそう言った。

絶対今回の仕事についてだろう。やるべき事はやったのだ
。

そして俺は、校長室についた。

「入りなさい」

優しい声が響く。

言われた通りに入り、言われた通りに席に着いた。

暫く談笑していた。

そしていきなり本題に入った。

「君の今回の仕事はよくやったと思う。あの数の魂を一気に。しかも無傷に運ぶとは素晴らしい。今までの君では考えられないほど素晴らしい」

「有難う御座います」

最後の一言は余計だが。

「そこで君にチャンスを与えよう」

「はい。何ですか？」

校長が微笑を浮かべた。

「来月、君にEクラスにはいるための試験を行う」

さらに続けて、

「コレを受けるかどうかは君が決めてくれ。以上」

校長は立ち上がって扉の前に立つ。

「受けるんだったら私のところに来い」

そうして校長は出て行ってしまった。

「…はあ」

確かにうれしいのだが…。じっくり考えるか。

進級（前書き）

前回のsgsd小説の続きです。アドバイスももらえたらうれしいです。

進級

いきなりだから、戸惑っている。

正直、コレでいいのかと思っっている。

成績は、赤点モノ。実技もできない。毎日魂を獲れない。

「無茶だ……」

しかし、俺のささやかな夢へ近づく一歩になる。

未来先輩に追いつきたい。

俺らの死神の学校はA→Zクラスまである。Aが一番頭の良いクラスでZクラスが馬鹿のクラス（俺はYクラスだ）である。

だから一気に夢に近づくわけだが……だが……！

ここから回想。

俺が死んで間も無く、この「死神会」に引つ張られた。

全てが闇に包まれていた。怖かった。

試しに手を振り上げ、下ろしてみる。何にも当たらない。

叫んでみる。反響もしないで俺の声は闇に吞まれていった。

「誰かいないんですか　！？」

しかも無反応のおまけ付。

「くそっ……」

涙が込み出てきた。こんなに寂しいと思ったのは初めてだ。

……ここでじっとしているのは虚しいので、歩き出すことにした。だが、

「立て……ない!？」

足に力が入らなかつた。試しにもう一回やってみた。

はい、無理。

しょうがないので腹ばいになって前に進む。尤もどっちが前でどっちが後ろなのか判らない。

終わりが見えない。苛々《いらいら》する。畜生。

……そもそもここは床であるのか？ 些細な疑問も生まれてくるようになった。ハイ、重症。まあ進むことぐらいしかすることが無かつたので試しに床？ をこぶしで殴ってみた。

……………(ズボ)。

ゼリーを殴っているような感じがした。待て待て一歩間違えば沈んで死んだんじゃないか!？ ……もう死んだけど。

うだうだ考えても何も変わらない。とにかく前へ進もう。

何も変わらないかもしれないけど。

そして、厭あききれるくらいの時間が経つたある日、

『その少年?』

誰かに声を掛けられた気がした。辺りを見渡すが何の気配はない。

『上だ。上を見る』

言われて上を見る。

綺麗な男が俺を見下ろしていた。

『……一個聞く。お前は死者だな？』
俺は頷いた。

『じゃあ何故こんな床の地下にいる？』

「待つて言ってる意味が解らない！」

男はふうと溜息をついた。そして、

『ちよつと待て。動くな』

と言われた。言われた通りに待ち、動かなかった。

『a i l i a n ! G o o d b y e !』

何ぞw 宇宙人つてw w w w w w w w

結論：俺は助かった。

ちなみにその男は未来と名乗った。

俺はこの男に惚れてしまった。

近づきたい。

俺の物にしたい。

そうして俺は未来先輩に近づきたいと思ったのだ。

回想終了。

俺は決意した。

（やっぱり・・・俺Eクラスに入る！）

自分の目標だから。

進級（後書き）

すすまねえ W W W W

まあ g d g d なりに続けます W

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4238j/>

魂ノ賭ケ事

2010年10月28日01時03分発行